

# 地域の声 聞いて!

## 統一地方選 2023 ①

23日告示、4月9日投票の道知事選を皮切りに統一地方選が本格化する。物価高騰や長引くコロナ流行で生活の厳しさが増す中、人々は政治に何を求めるのか。ひきこもり、労働、教育、子育てなど、各分野に詳しい人たちに現場の課題とともに聞いた。

ひきこもりの人を支える活動を20年以上続けています。私も含めスタッフの多くは不登校やひきこもりの経験者です。1992年に全国組織の一員として不登校の電話相談をボランティア

アで始めましたが、「電話はハードルが高い」という声があつたため、99年に私が発起人になり手紙やメールでの相談を始めました。20代や30代からも相談が寄せられ、不登校に限らず年齢制限せず相談を受け付けると、ひきこもりの相談が多いと分かりました。居場所づくりのほか、会報作り、当事者が家にいても社会と接点を持てるような支

### ひきこもり

援を行いました。年間300件以上の相談があり、9割がメールです。2018年の札幌市の調査では札幌のひきこもりの人は推計約2万人、内閣府の調査などから道内は約7万人と推定されます。ひきこもりの若者支援を柱とする「子ども・若者育成支援推進法」は対象が30代までで、「生活困窮者自立支援法」は就労準備支援など就

労色が強い。ひきこもり支援は就労の手前の支援拡充が重要ですが、現状は法律からこぼれ落ちてしまう人がいます。ひきこもりの人を対象にした基本法を作るよう、地方議員や自治体は国に求めていくべきです。

## 当事者経験 社会に還元を

最近子どももの貧困に目が向けられています。大人の貧困を「甘えている」と考えるのはおかしい。ひきこもりは病気や障害のようには福祉制度の対象となり、当事者は孤立しがちです。切り詰めた生活の中で、2時間歩いて相談に訪れる人もいます。都道府県や政令指定都市に設置されている「ひきこもり地域支援センター」は15年にやっ

と札幌市にもできました。前年に札幌市長と市議会議長に設置を陳情しましたが、動きが鈍かったと感じています。80代の親が5代の子どもの生活を支える「8050問題」も、もっと深刻になると考えます。高齢化が進み「8060」「9060」にもなるでしょう。親が子どもを支えるだけでなく、子どもが親を介護しなくてはならないからです。

NPO法人「レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」理事長 田中 敦さん (57)



たなか・あつし 1965年札幌市生まれ。父が公務員で転勤が多く、小学校は3度変わった。中学時代は不登校だった。高校浪人を経て高校、大学へ進学。北星学園大大学院修士課程修了。札幌学院大非常勤講師。

当事者同士などが支え合う「ピアサポート」に取り組んでいます。経験者との関わりを通じて、働き始めた当事者もいます。ピアサポートの態勢強化を含め、ひきこもりの当事者が自らの経験を社会に還元し、良い循環を生みだせるような仕組みを、政治にはもっと考えてほしいと思います。

(聞き手・鈴木雅人)